

PCP研究会
Newsletter

No. 34

Advance **最終号**

～精神科薬剤師のさらなる進化への挑戦～

発行:PCP研究会広報委員会

巻頭言

PCP研究会閉会にむけて

2005年に発足した精神科臨床薬学(PCP)研究会は、2024年3月末日をもって解散することになりました。これまでのおよそ18年間、多くの会員の皆様に支えられたおかげで、私たち世話人ともども、ここまで大きく成長できたと思っております。この場を借りて心から感謝申し上げます。

PCP研究会と言えば、全国処方調査やブロック講演会を思い出します。全国処方調査のデータは、現在も取り組まれている向精神薬多剤投与の減算規定の基になりました。また、ブロック講演会のワークショップは、向精神薬処方の適正化を考える薬剤師を育て、かつ自施設を超えて多くの横のつながりをもたらしました。その他、“みんなねっと”における社会貢献活動は、患者さんやそのご家族に薬剤師が薬物治療に関する相談役として機能することを示しました。PCP研究会は解散しますが、これまで皆さんが活動してきた軌跡は永遠です。今後は、日本精神薬学会(JSPP)がPCP研究会の精神(スピリット)を受け継いで、更に発展させていきたいと考えております。終わりは、新たな始まりの起点です。精神科薬剤師の新たな挑戦を目指して、Let's move Advance! 精神科医療および精神保健福祉に関わる薬剤師の益々の発展を祈念いたします。

世話人会顧問：黒沢 雅広



2023年度全国処方調査協力依頼

PCP研究会では、本邦の統合失調症に対する処方実態・動向を把握するため、2006年以降毎年処方調査を行っています。昨年度の調査では、73施設より入院患者のデータ(8,756例)を、48施設より外来患者のデータ(4,344例)をご提供いただきました。業務繁多にも拘らずご協力いただきました先生方、改めてお礼申し上げます。

今年度も、入院は10/31(火)、外来は10/23(月)～10/27日(金)に受診した患者について、処方調査を行います。今回、新たな調査項目はありません。参加を希望されるご施設は、メールにて事務局までご連絡ください。

PCP調査委員会：宇野 準二

世話人からのメッセージ

代表幹事

PCP 研究会の約 18 年間の活動を通じ、会員の皆様のご協力の下、国内の精神科医療と精神科薬物療法の適正化に薬剤師が重要な役割を果たせることを証明できました。研究会の設立当初は、代表世話人として全国を訪問し、精神科薬剤師の皆様と直接お会いし、共に研鑽してきたことが大きな財産となっています。PCP 研究会は閉会しますが、今後どうぞよろしくお願ひ致します。



(吉尾 隆)

副代表幹事

PCP 研究会設立以来 18 年間、会員の皆様には本研究会の活動にご協力・ご参加、ご支援頂き、有難うございました。これまでの活動は精神薬学会に受け継がれ、さらにバージョンアップした企画をご提供できるようにしてまいります。今後も皆様のさらなるご活躍をお祈り申し上げます。



(野田 幸裕)

約 19 年前、当時のヤンセンファーマの担当者さんからの、「武田先生（前大阪大学精神科教授）が、精神科薬剤師の会を作ってみてはどうか」という申し出が本会発足のきっかけでした。あれから 18 年、会員の皆さんをはじめ、多くのご支援のもと本会も成人式を迎えることができました。残念ながら閉会となりますが、皆さんとは次のステップに向かいたいと思います。ありがとうございました。



(天正 雅美)

顧問

PCP 研究会を 18 年間ありがとうございました。PCP 研究会の幕引きは、精神科薬物療法における一つの歴史が幕を閉じることですが、同時に新たな門出でもあります。これからも楽しみながら先に進んでいきましょう。



(三輪 高市)

東北ブロックの皆さん、これまで当会事業へのご参加、本当にありがとうございました。谷藤先生と一緒に取り組んだ東北ブロック講演会では、多くの方と友達になれたことが私にとっての財産です。現在は東京留学中ですが、いずれは青森に戻ってまた面白いことをやろうと思っています。また会いましょう！



(黒沢 雅広)

幹事

北海道の世話人という光栄な仕事を行えてとてもうれしく思っています。世話人という立場を通じ PCP 研究会が会員ひとり一人の頑張りにより成り立っていることを実感することが出来ました。今後も力をお借りする場面があると思いますので、よろしくお願ひいたします。

(北海道ブロック世話人 志田 雅彦)



第 1 回東北ブロック講演会で黒沢先生と出会い、「東北を盛り上げよう！」という想いでコンビを組み、これまで試行錯誤を重ねて参りました。東北の皆さまの支援があったからこそ、続けることができました。ありがとうございました。

(東北ブロック世話人 谷藤 弘淳)



PCP 研究会で多くの先生方とディスカッションすることができ、世話人としても貴重な経験でした。ありがとうございました。今後は日本精神薬学会で PCP 企画を継続することになりましたので、よろしくお願ひいたします。

(関東・甲信越ブロック世話人 高橋 結花)



関東・甲信越（東京）ブロックの皆さん、これまで講演会や処方調査にご協力頂きありがとうございました。私は世話人よりも参加者としての年月が長かったので、ワークショップでいろいろ検討したことが懐かしく思い出されます。また日本精神薬学会でお会いしましょう！

(関東・甲信越ブロック世話人 佐藤 康一)



千葉会場にて、長谷川先生と共に運営のお手伝いをさせて頂き、全国で活躍する世話人の先生方のパワーに圧倒されながら、精神科医療の変遷を肌で感じ、学ぶことが出来ました。大変感謝しております。有難うございました。

(関東・甲信越ブロック世話人 鈴木 貴子)



2008 年度から講演会大宮会場の担当を務めさせて頂きました。会員の皆様のご協力を得て開催できたことを嬉しく思っております。毎回、質疑応答の活発な大変有意義な講演会でした。ありがとうございました。

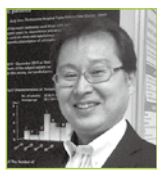
(関東・甲信越ブロック世話人 加藤 剛)



世話人からのメッセージ

幹事

東海ブロック講演会では、毎回名古屋まで足を運んでいただき、ありがとうございました。SGDのグループ分けで先生方のお名前を確認し、当日お目にかかるのを楽しみにしていました。JSPPの学会でも宜しく願いたします。



(東海ブロック世話人 宇野 準二)

これまで精神科薬剤師の方向や成長に大きく貢献してきたPCP研究会が閉会することになり、発足以来ずっとかかわってきた世話人として非常にさみしく思いますが、今後JSPPの中にコーナーが残るということなので今度はそちらで皆様とお会いしたいと思います。最後に、これまでご参加いただいた先生方、講師の先生方、そしてバックアップしていただいた大塚製薬様に心から感謝申し上げます。



(北陸ブロック世話人・会計監事 中川 将人)

会員の皆様のご協力により、近畿ブロックの講演会を開催することができました。コロナ禍で皆が集まって行う講演会ができなまま解散となり、とても寂しく思いますが、これからも力を合わせて安心・安全な精神科薬物療法を推進していきましょう！



(近畿ブロック世話人 宮原 佳希)

近畿ブロックの世話人として微力ながらお手伝いさせていただきました。会員の皆様にはこれまでご協力ありがとうございました。世話人の皆様にも色々とお世話になりました。楽しい思い出がいっぱいのPCPでした。皆様様に感謝申し上げます。



(近畿ブロック世話人 本多 智子)

当研究会が発足したのは2005年のことですが、縁あって準備段階から関わらせて頂きました。多くの方々にご賛同頂き、巨大な研究会に発展し、本邦の精神科医療に大きく貢献できたのではないかと思います。会は閉じましてもこのご縁はさまざまなかたちで続くものと思います。これからどうぞ宜しくお願い致します。



(中国・四国ブロック世話人・会計 梅田 賢太)

最後に会員の先生方に伝えたいことは、感謝以外にありません。中国・四国ブロックの先生方をはじめ、全国の先生方、長い間、本当に本当にありがとうございました(涙)。(自撮りした写真を見て)PCPと共に自分も年取ったなあ・・・。



(中国・四国ブロック世話人 北川 航平)

三輪高市先生から引き継ぎ、九州ブロックを15年間担当させていただきました。講演会にはいつもたくさんの方がお越し下さり、先生方にお会いできるのをとても楽しみにしていました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。



(九州ブロック世話人 柴田 本綿)

これが最後の投稿になるかと思うと正直寂しいです。自分の精神科病院でのキャリアはまさにPCP研究会から始まり、PCP研究会で幕を閉じることとなりました。結果的に沖縄会場では参加できませんでした。全国各地の同志とお近づきになれたことは本当に自分の人生の宝となりました。また、どこかで見かけた時には気軽に声をかけください。たんでいが〜たんでい🙇(宮古島語で「ありがとうございます」)



(九州ブロック世話人 高田 憲一)

PCP研究会 18年の歩み

2005年・PCP研究会 発足

2006年・全国処方調査をスタート
・全国8ブロック12カ所で開催
・ニュースレター「Advarce」創刊号発行

2007年・ホームページ公開

2008年・会員数1,200名を超える

2009年・ブロック講習会が、認定講習会として認められる
・全国処方調査、15,000症例を超えるデータが集積

2010年・みんなねっとで「お薬相談窓口」活動をスタート

2013年・評価尺度DVDの貸し出しスタート

2014年・研究会版アドヒアランス調査票作成の協力依頼

2015年・全国処方調査学会発表スライドのWEB公開
・「Advarce」メール配信での配布となる

2020年・コロナの影響によりWEBでブロック講演会を開催

2021年・WEBブロック講演会参加者が200名を超える

2023年・PCP最後のみんなねっとお薬相談(埼玉大会)
・ニュースレター「Advarce」34号(最終号)

2023 年度上期の活動報告

テーマ：統合失調症治療とリハビリ ～社会機能の改善にむけて～

| ブロック | 開催地 | 開催日 | 講演Ⅰ | 講演Ⅱ | 参加人数 |
|--------|-----|-------|-------------------------|-----------------|------|
| 関東・甲信越 | 東京 | 6月18日 | 北川 航平 (岡山県精神科医療センター) | 根本 隆洋 (東邦大学) | 142 |

先生方のお名前は敬称略で記載させて頂いております。

2023 年度上期講演会を振り返って

会の冒頭、代表幹事の吉尾先生より本会の閉会に向けた挨拶があり、また講演Ⅰの北川航平先生からは本会が長年継続してきた全国処方調査の振り返りもあり、会の歴史と果たしてきた役割の大きさを感じました。東邦大学の根本隆洋教授からは、統合失調症患者の社会機能について専門的な内容を薬剤師にも分かりやすくお話し頂き、貴重な機会となりました。

関東・甲信越ブロック世話人 佐藤 康一

2023 年度下期講演会開催（予定）のご案内

テーマ：うつ病 の増強療法

開催日など詳細は、ホームページにてお知らせいたします。

※ WEB 形式にて開催となります。都合により変更となる場合がございますので、詳細は PCP 研究会ホームページの活動状況欄をご覧ください。

PCP 研究会企画ワークショップ より良い薬物治療を考えようー症例検討「うつ病」

9月の第7回日本精神薬学会総会・学術集会で、PCP 研究会企画ワークショップを開催しました。演者には名城大学薬学部吉見陽先生、座長には代表世話人の吉尾隆先生、そして各ブロックの世話人がファシリテーターを担当し、うつ病の症例検討を行いました。当日、急遽1グループ増やすことになったり、飛び入り参加の鍋島俊隆先生にファシリテーターをお願いしたり（鍋島先生、本当にありがとうございます！）、想定外のこともありましたが、会場は活気に満ち溢れ、どのグループも真剣にそして楽しそうに議論されていました。

九州ブロック世話人 柴田 木綿



事務局より 会員の皆様へ

設立当初から PCP 研究会を支えていた大塚製薬に代わり、途中から事務局業務を請け負ってまいりました。日々皆様へのサポートを行う中で、世話人の先生方から意見を求められたりすると、PCP 研究会の一スタッフとして少なからず協力できているのだと喜びを感じていました。もちろんご迷惑をお掛けしたことも多々ありました。しかし、最期まで関わることでできたことは光栄であり、得がたい経験だと思っています。ありがとうございました。



(都所 洋)

全国処方調査を振り返ってーバトンは PCP から JSPP へー

今年の10月31日は出張で渋谷にいた。今年、渋谷はハロウィンコスプレイヤーによるトラブル抑止のため、ハロウィン目的での来街自粛を呼びかけ、現地は大勢の警察官が警戒に当たっていた。この日、世間はハロウィンの日だが、私たち PCP 会員は処方調査の日である。

当研究会で初めて全国調査が行われたのが2006年だが、そこから17年も続いたことに深く感慨を覚えながら本稿を書いている(2023年11月現在)。今年の調査も加えれば18年ということになる。毎年、事務局から送られてくるデータ入力用シートの小さすぎるセルに、カルテから種々の臨床情報を転記するわけだが、1行ずらして入力していたり、身長と体重の数値を逆に入力していたり、しばらく後になってから気づいて叫んだことのある方は、おそらく私だけではないように思う。また、「まだ時間ある、まだ時間ある」と現実から目を背け、結局締め切り間際に、3桁に及ぶ患者データを一気に入力しようとして気が狂いそうになった経験をしてからは、調査は「1日〇人」と決めて、毎日少しずつデータ入力することを心掛けている。そんな処方調査も20年に迫る歴史が積み重ねられた。

全国調査が始まった2006年は、抗精神病薬の単剤率29.4%、CP換算値873.8mg/日、BP換算値2.6mg/日、DAP換算値16.1mg/日だったが、2022年には、単剤率44.8%、CP換算値704.6mg/日、BP換算値0.8mg/日、DAP換算値7.2mg/日となった。世界でも稀と言われたわが国特有の多剤併用・大量処方の17年の変化を、会員の先生方も実感されたことだろう。しかし、この17年で確かに単剤率は増加し、CP換算値やBP換算値、DAP換算値は減少したが、未だに調査対象者の半数以上が多剤併用であり、CP換算値も抗精神病薬の適正用量の上限とされる600mg/日を超えている。統合失調症薬物治療は、決して単剤治療が最善で、600mg/日超えはナンセンスという単純なものではないが、海外の処方調査を眺めてみても、日本の薬物治療はまだ変化が必要である。そのためにも、私たち精神科薬剤師が果たすべき役割はまだ残されている。

2024年の調査からは、日本精神薬学会へ引き継がれる予定となっているが、引き続き全国の先生方のお力をお貸しいただけるよう伏してお願いをする次第である。

最後に、当研究会が調査を17年続けられたのは、日々の多忙な業務傍ら、調査に協力をしてくださった全国の先生お一人お一人のお陰に他ならない。ここで改めて、深く感謝を申し上げる。

中国・四国ブロック世話人 北川 航平

事務局 掲示板

■事務局連絡先

〒113-0031 東京都文京区根津1-4-4 河内ビル5階
株式会社青海社 内

E-mail : contact@pcp-rg.org

(メールには必ず、1. 施設名、2. 氏名を記載して下さい。)

FAX : 03-8532-6172 URL : <https://www.pcp-rg.org/>

【編集後記】

2005年から18年続いたPCPの最後のAdvance編集後記となりました。会員の皆様、世話人の皆様、関係者の皆様には感謝しかありません。ブロック研修会を通じて精神科を語る薬剤師の仲間が出来たことを心から嬉しく思います。このご縁を大切に共に歩んで行きましょう。ありがとうございました。(H.T)